

国立市被爆樹木アオギリ二世植樹式 永見理夫市長あいさつ(要旨)

平成 29 年 6 月 5 日 (月曜日)

於：国立市役所西側広場

日ごろ、市の平和施策に大変なご協力をいただいている多くの市民の皆さま、市議会議員の皆さま、多数の方々にお越しいただきましたこと心から感謝申し上げたいと思います。合わせまして、本日は広島より松井市長様にお越しいただきました。心から感謝申し上げます。

昨年の 11 月 16 日に前市長である佐藤一夫氏をご逝去されました。それに先立ち、11 月 8 日に千葉県佐倉市で、平和首長会議総会が開催されるにあたって、11 月初旬、私は佐藤前市長の病室にひとり訪ねました。そして、「どうされますか」「佐倉市に行かれますか」とお話をさせていただきました。私は代理で行くように言われるかと思っていたのですが、佐藤前市長は「行きます」「私が行きます」と、そして、「平和施策の内容と考え方を表明させていただきます」とおっしゃいました。今考えれば死を覚悟してのご発言だったのだろうと思います。

総会に参加された方は、佐藤前市長の壮絶な平和への思いを胸に刻まれたことと思います。私はその後、市長を継がせていただきました。その際に心に決めたことは、平和への熱意、平和への思い、そして惨禍（さんか）は繰り返してはならないということです。このことを佐藤前市長の意思として継いでいくと固く誓ったところでございます。

佐藤前市長が、「市民の命を守りぬくことは市長の使命である」とおっしゃったことが記憶に残っております。私はこの言葉を受けて、約 8 万人のくにたち市民を尊ぶこと、命を尊ぶこと、それに加えて、すべての市民が平和の尊さ、命の尊さ、そして人権の大切さを、さまざまなかたちで発信していただくための機会をつくる必要があると考えました。国立市には、平和都市宣言がございます。また、長崎、広島で被爆された市民の体験を語り継ぐ伝承者を育てております。さらに加えて、今年度は独自の平和組曲をつくり、その組曲を歌う合唱団を組織し、11 月 3 日の市制施行 50 周年記念式典で発信をしてみたいと思います。

戦後 70 数年を過ぎました。「夏の花」を書いた原民喜さんを思い浮かべます。あるいは、大岡昇平さんや、戦争の世代を生きた多くの方々がすでにお亡くなりになられました。国立市では、この現代において、平和を文学として発信するという果敢な挑戦を行い、新たに平和文学賞を興し、芸術性の高い文学を国立市から発信していきたいと考えております。

今申し上げたようなさまざまな事業を通して、平和とは何か、人の命とは何か、人権とは何かについて市民の皆様と共に私は考えてまいりたい。そして議論をして、前に一歩、平和が前に一歩進むよう努力してまいりたいと思います。

市役所の西側広場には、アンネのバラが植えられております。そして、本日ここにアオギリ二世を植えることができます。市民の皆さまが国立市役所に来て、これらの植物を通して平和の尊さを感じていただけたら、こんな幸せなことはないと考えております。

本日の植樹にあたりまして、私はただ今申し上げたようなさまざまな行政施策を通して、市民の方々共々、平和施策、平和への願い、そして平和への達成を進めていくことをお約束しまして、本日の主催者のあいさつとさせていただきます。